

Emotional Diversity in *the Sonnets* of Shakespeare

シェイクスピアのソネット集における感情の多様性

青年の美を守る

「守る」というテーマはソネット集の中でよく現れるものである
このテーマを守る対象や感情の変化を比較・議論している

青年の年齢や名前は登場しない

詩人の青年に対する愛情が特別な友人に対する愛なのか恋愛感情なのかは不明である

①青年の美を子孫を残すことで守る

- ・ 青年に子孫を残させる→遺伝により青年の美が子孫に継承され保存される
- ・ 子孫を残すことで青年の美を守ろうとする考えはあまり書かれていない
→あくまで2番目の方法がメインであると考えられる

②シェイクスピアの詩によって守る

- ・ 青年の美を題材にシェイクスピアが詩を書くことで彼の美を守る
→この作品が読み続けられる限り読者の脳内や記憶の中で青年自身や彼の美しさが生き続ける
- ・ 「蒸留」という考え
シェイクスピアは青年の美を彼の作品に蒸留していると表現している
単に青年の美全てを守るのではなく、シェイクスピアが考える青年の美の真髓のみを汲み取り
守るとするのが蒸留という考え方である

①と②の比較

1. ①の青年が子孫を残すことで彼の美を守るという考えの詩よりも
②のシェイクスピア自身が詩を書きその作品により彼の美を守るという
考えの詩の方が圧倒的に数が多い
2. 自分の詩を不毛であると表現する場面もみられるが、
最終的には自分の詩の力や芸術というものが偉大であることを示している

⇒これらの2つを考えるとシェイクスピアの考えは
②の自分の詩で青年の美を守るという考えに傾いている。

ダークレディを守る

ダークレディとは詩人の愛人として登場する黒人女性であり、青年同様年齢や名前は不明
青年とも関係を持っており作品内で三角関数が描かれている

・ダークレディを美しいと表現

詩の中でダークレディは周囲の人からすると美しい人物ではないと描かれていない
しかし詩人はダークレディを美しいと表現することでダークレディを守っていると考えられる

・ダークレディを肯定することで詩人の審美眼を示している

ダークレディは誰の目から見ても美しいと言える人物ではない
詩人自身もダークレディの不備を表現している

⇒しかし、詩人はダークレディの美しさを褒め称えることで、
自分には真の美を見ることができるということを示しているように考えられる

まとめ

・ 青年とダークレディという対照的な登場人物を描く

2人の登場人物は対照的であり2つの違う感情を1人の詩人の胸中を通して描くことで人間の感情の複雑さがよく描き出せている

◦青年への愛→肉体関係もないため純粹そのものである

◦ダークレディへの愛→肉体関係もあり欲望も含まれた感情

詩人はどちらの愛情に対しても善し悪しの判断はせずどちらも人間のもつ感情だとしている

・ シェイクスピアの考えや詩の持つ力を示す

彼はただ2人への愛情や自分の感情を描くだけではなく、それらを描くということを通して自分自身の持つ考えや技術、詩や芸術の力を読者に伝えようとしていると考えられる

⇒様々な感情や愛情を描き彼の技術で様々な工夫をし作品を作り上げることで『ソネット集』を今もなお多くの読者を惹きつけ愛され続けているものにすることで詩人自身の考えをこの作品に蒸留している

参考文献

- Duncan-Jones, Katherine. Ed. Shakespeare's Sonnets. London: Bloomsbury Publishing, 1997. Print.
- Lowers, James K. Cliffs Notes on Shakespeare's Sonnets. U.S.A.: 1994. Print.
- Williamson, C.F. "Themes and Patterns in Shakespeare's Sonnets." Shakespeare: The Sonnets: A Casebook, 230-247. Ed. Jones, Peter. London: The Macmillan Press, 1976. Print.
- Grundy, Joan. "Shakespeare's Sonnets and the Elizabethan Sonneteers." Shakespeare: The Sonnets: A Casebook, 185-199. Ed. Jones, Peter. London: The Macmillan Press, 1962. Print.
- Healy, Margaret. Shakespeare, Alchemy and the Creative Imagination: The Sonnets and A Lover's Complaint. UK: Cambridge University Press, 2011. Print.